

---

# 【紺青の春】

サトヤレンリ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【紺青の春】

【コード】

N0861P

【作者名】

サトヤレンリ

【あらすじ】

駄目な人間とその人間が好きな普通の俺。

時々、『世界なんてどーでもいい』って顔をしながら煙草の煙をため息がわりに吐き出して、虚ろな眼は何処を見ているのやら検討もつかない。

「相変わらず、たそがれてるねー、オマエ」

「煙草くんない？」

「吸ってんじゃん」

「これで終わりなの」

葉巻に似た甘く独特な香りが既に体を纏っていた。  
それは壁という言わば境界線のようなものなんだろうか。

「またそんな顔してオマエも損な生き方してるね」

「生きるのも面倒、死ぬのも面倒。悪循環ですよ、コレは」

理由など在りはしないし、俺にだって分からない。  
世間で認められるところの大人ってやつになってもそんなものは分  
かりはしない、けど、そんなもんだろ。  
たかが、20数年生きたところで分かるかよ。

「そんなのさー自分の生きてきた証っていつくだらないもん遣した  
いとか思ってる偽善者のしてる事だよ」

「いや、環境問題をそこに発展されても」

「要は世界がどうなろうと地球環境がどうなろうと私が生きてる間  
には関係ないし、できれば私は自分つてもんをどんな形だろうと遣  
したくないの」

煙草を吸うのは人生そのものを短くする為、とでも言うつもりなん  
だろうか。

「最低限のマナーの話だろ、マナーを守らない奴が居るから守って  
る奴は腹が立つんだよ」

「それ言ったらこんな風にした昔の奴がムカつくね、私は。オマエ等の所為で今マナーだとかエコだとかエコだとかエコだとか煩いんだよ、どいつもこいつも」

「・・・オマエは大人としてって言うより人間として駄目な感じだな」

でもさ、オマエみたいな駄目な人間を『好きだ』とか思ってる俺はどうなの？

普通の会社員で普通の日本人な俺はオマエ無しじゃ生きていけない、とか思ってるんだけど。

「あれじゃん？オマエ、人生100年で考えてない？」

「はっ？」

「俺は人生40年だと思ってるからもう残りが20年無いわけ。だからできれば残りの人生は好きな人と幸せに暮らしたいんだよね」

「え？ヤダよ」

「いや、まだ何も言ってるないん、」

「ヤダ、ヤダ、ヤダ、ヤダ、ヤダ、ヤダ、ヤダ、ヤダ、」

「うるせーよ、てか何なんだよ、オマエ」

携帯灰皿に吸い殻を入れて伸びをした。

言ってる事とやってる事の矛盾に今更ツッコんだりはしませんよ。

「オマエ、知らねーの？人間って思考してるほど人生長く感じんだぞ」

「知ってるよーだから私は100年生きるんだもん」

笑い声が響くのは陽射しの強い午後1時。

e n d

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0861p/>

---

【紺青の春】

2010年11月23日12時44分発行